

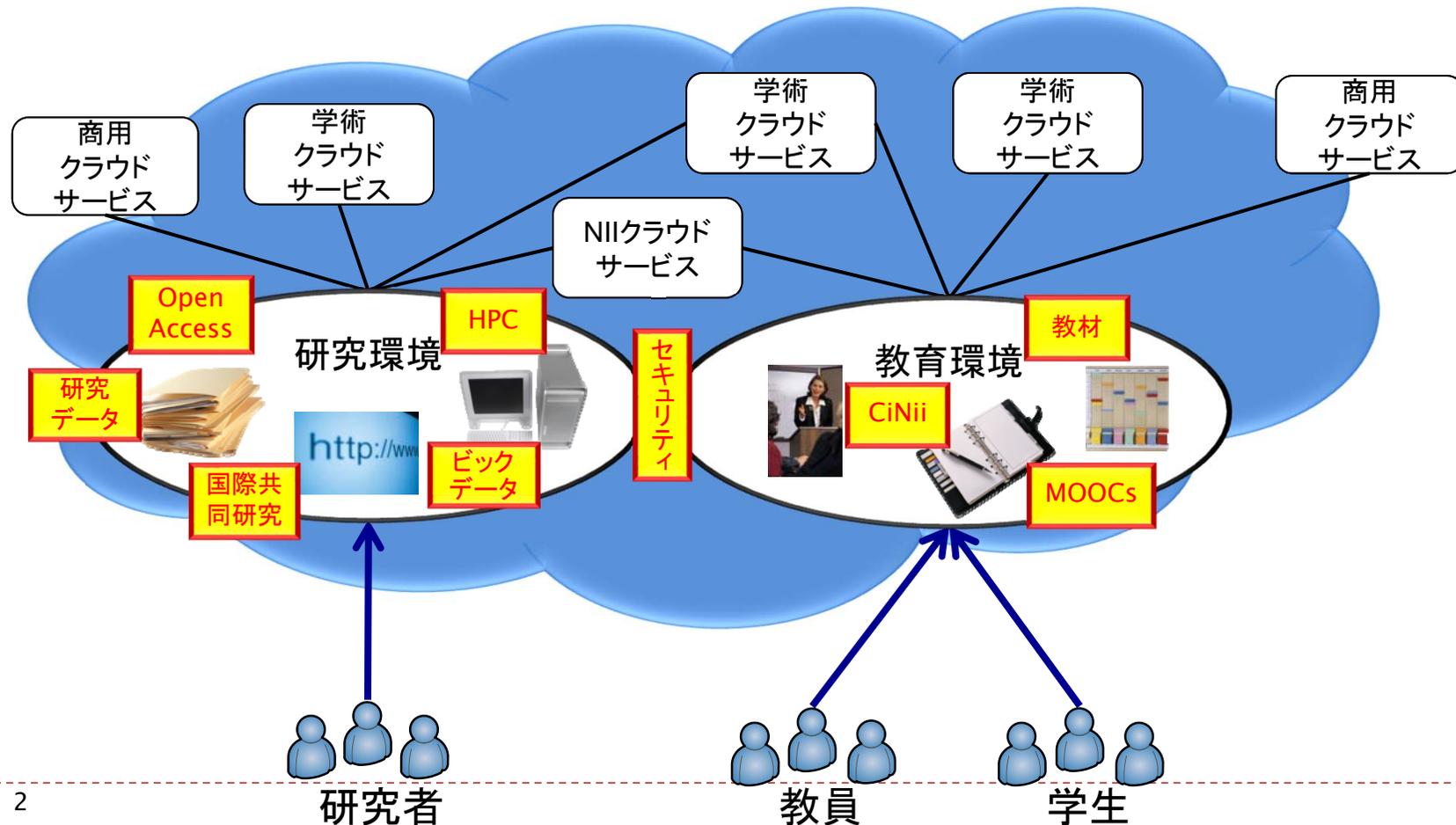


# 学認アップデート

2015.6.11 学術情報基盤オープンフォーラム2015  
野田 英明(国立情報学研究所 学術基盤課)

## これからの研究教育環境

- ▶ 研究・教育に必要なツールやコンテンツがクラウドに
- ▶ 欧米ではクラウドを利活用した最先端研究教育環境の整備が進行中





## ID・アクセス管理の観点から・・・

---

- ▶ サービスの提供者は学内・学外に散在
- ▶ 複数大学によるサービスの共同利用が拡大
- ▶ サービスのマッシュアップにより、活用の幅が広がる
  - ▶ 「どこから提供されるサービスなのか」を意識する必要なく、複数サービスを横断的に、かつ安全に利用できることが重要  
→ **シングルサインオン(SSO)**で解決！



## シングルサインオン(SSO)の特徴

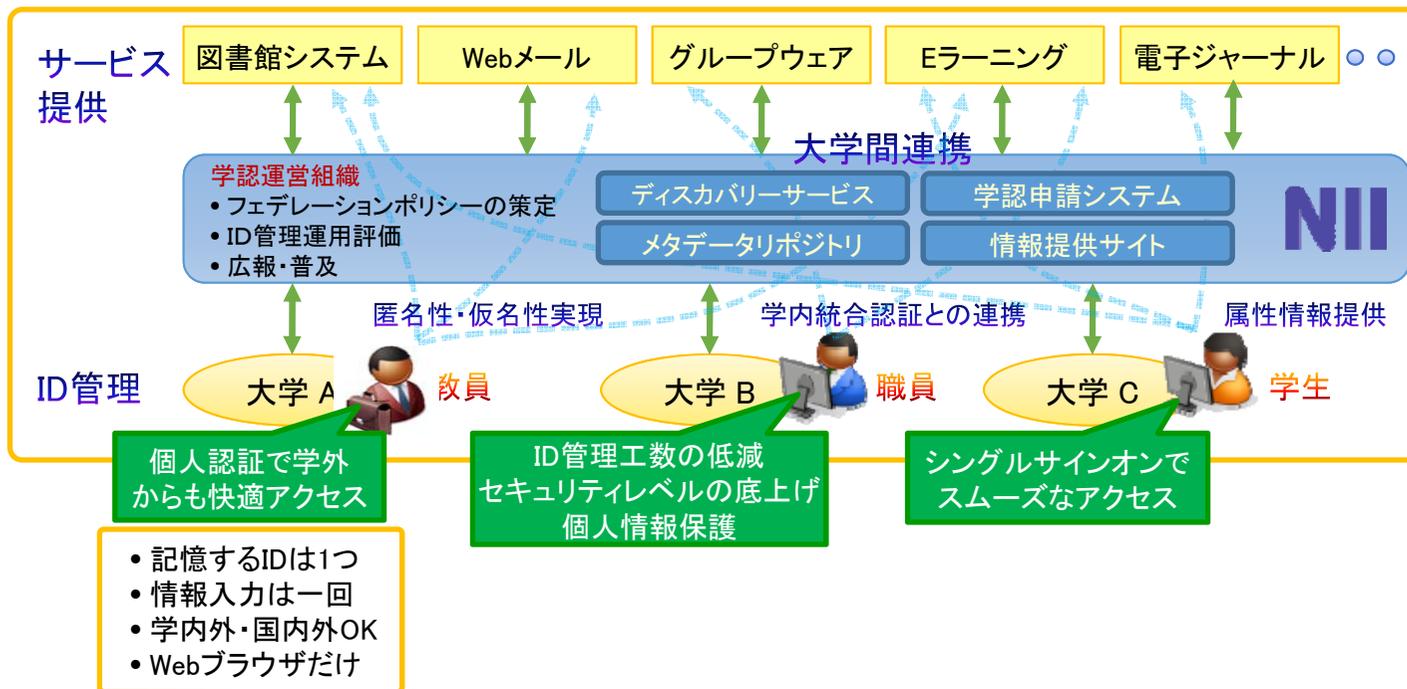
- ▶ 認証処理をサービスから分離
  - ▶ パスワードの流通範囲が限定され、漏洩の可能性が下がる
  - ▶ SSL/サーバ証明書による通信路の保護(盗聴対策)
  - ▶ プライバシー保護も可能(ユーザIDすら渡す必要がない場合も)
  
- ▶ 認証処理を一カ所に集約
  - ▶ ID管理のコスト削減と信頼性向上
  - ▶ より高度な認証処理の導入が容易
    - ▶ サービス毎の使い分けにも対応可能
  
- ▶ これからのクラウド時代には不可欠な仕組み
  - ▶ サービス提供機関側、ユーザ機関側の双方でID管理コストを削減
  - ▶ 連携先リスト(メタデータ)の管理による成りすましサイトの排除
  - ▶ 他機関との連携のためには仕様の統一が必要
    - ▶ 様々な仕様の乱立: CAS、OpenAM、JOSSO、Shibboleth(OpenSourceのものだけでも)



# 学術認証フェデレーション「学認」

- ▶ シングルサインオン技術の活用により、これまで一つの大学・研究機関の中に閉じていた認証システムを組織外の多様なサービスと連携 ⇒ **利便性向上と管理コスト削減**
- ▶ 認証ID提供側とサービス提供側との相互の信頼を担保するためのルールと評価の仕組みによる **信頼の枠組みの提供** ⇒ **セキュリティとプライバシーの確保**

クラウドの活用を支援



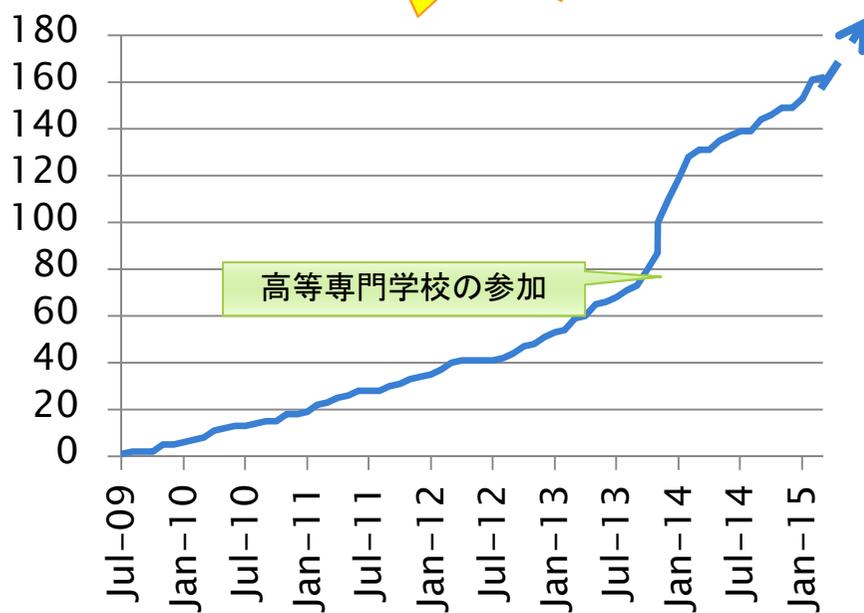
- 民間フェデレーションとの連携による学割サービス等の開発
- より高度で便利な本人確認手法との連携機構の開発と提供
- 信頼レベル認定による格付け
- きめ細かなプライバシー保護のための制御機構の開発と提供
- 共同研究や共同利用を支援するグループアクセス機構の提供



## 学認参加IdPの推移(2015/4末現在)

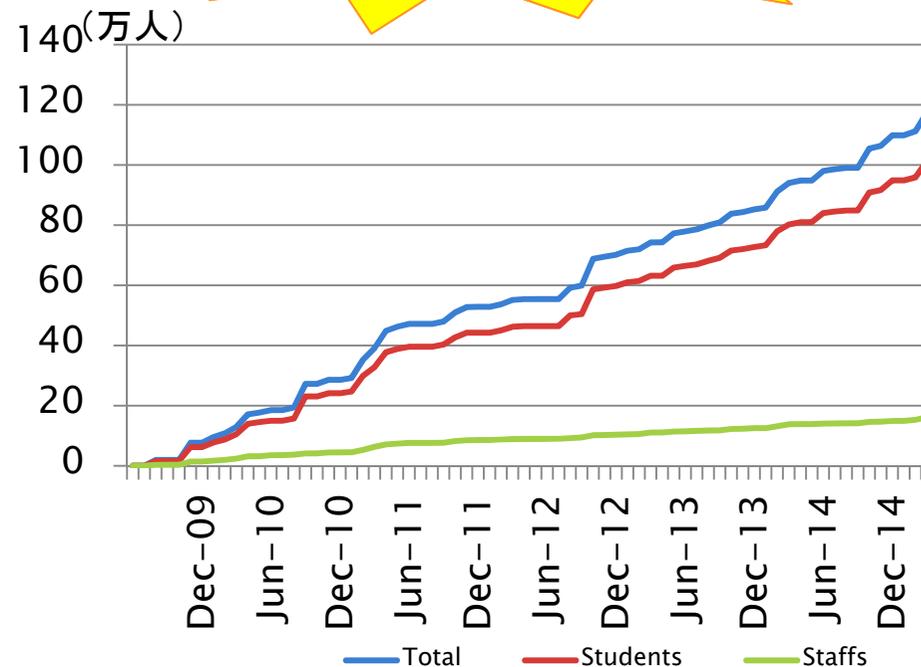
### 機関数

162機関



### ユーザ数

総ID数約118万



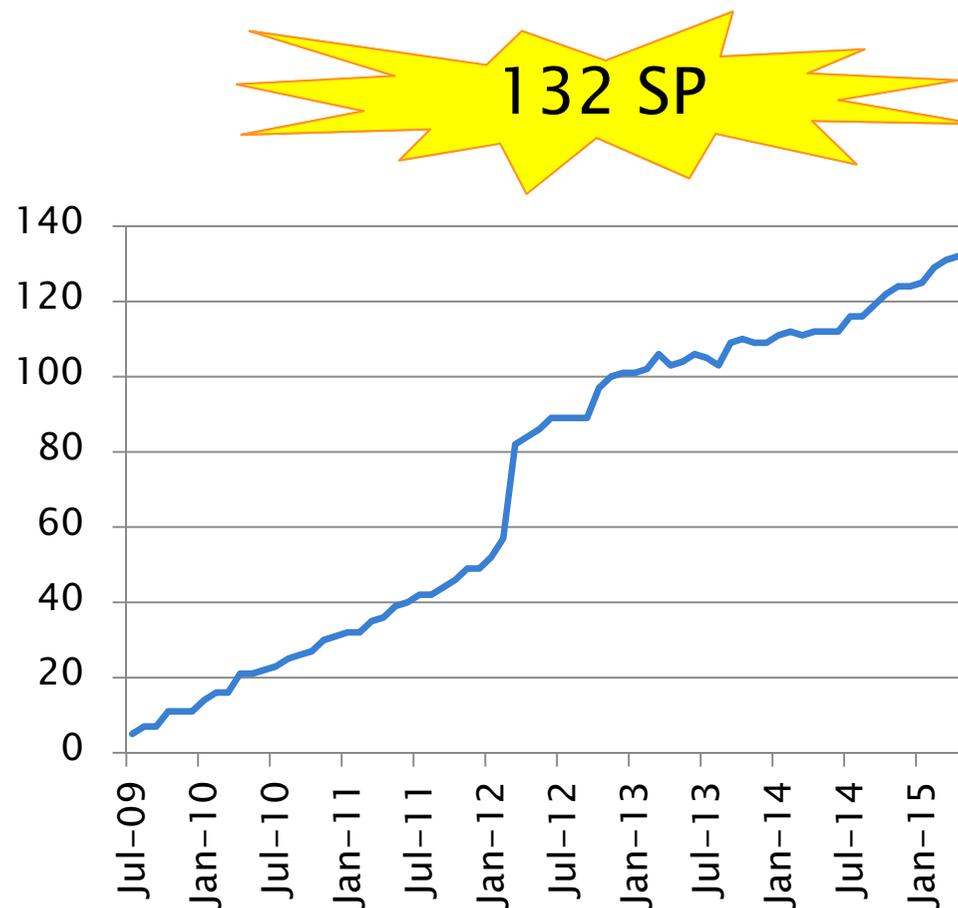
	国立大学	公立大学	私立大学	短期大学	高等専門学校	共同利用機関	その他	合計
学認参加数	53	9	41	0	51	1	7	162
カバー率	62%	10%	7%	0%	89%			
総機関数	86	92	603	334	57			



## 学認参加SPの推移(2015/4末現在)

メタデータ登録数(公開準備中を含む)

- ▶ コンテンツ系サービス
  - ▶ 電子ジャーナル
  - ▶ 機関リポジトリ
  - ▶ 文献検索
  - ▶ 論文・業績情報管理
  - ▶ 開発環境(ソフトウェア)
- ▶ 基盤系サービス
  - ▶ 無線ネットワークアクセス
  - ▶ Eラーニング
  - ▶ テレビ会議
  - ▶ ファイル共有
  - ▶ メーリングリスト
  - ▶ クラウド環境





## 平成26年度 学認アンケート

---

- ▶ IdPが「学認実施要領」「学認技術運用基準」に即して運用されているか、アンケートによるセルフチェックで確認
- ▶ 平成26年9月末日現在、学認運用フェデレーションに参加しており、かつ、IdPを設置している機関を対象
- ▶ 調査は平成26年10月28日～11月28日の日程で実施
- ▶ 136機関から回答

## 評価結果





## 平成26年度 学認アンケート結果より

---

- ▶ 全体として良好な運用レベル。
- ▶ 多くの大学で、IdPは全学的なセキュリティポリシーに基づいて運用
- ▶ 利用者IDは、学務データや人事データ等、組織にとって信頼できるデータベース (Trusted DB) から作成されるよう定められている機関が多数。
- ▶ 個人情報保護規程の策定率・uApproveの導入率は、ともに前年度より上昇



## Shibboleth IdP ver 3

---

- ▶ 2014年12月22日リリース
- ▶ 送信属性選択の標準搭載など，機能が向上
- ▶ 現在の最新バージョンは 3.1.1 (2015.6.10現在)
- ▶ では，現在使っているIdPはどうなるの・・・？





## Shibboleth IdP ver.2.x EOL

---

- ▶ Shibboleth Consortiumによるサポートは  
2015年12月31日から段階的に縮小
  - ▶ – All security bugs and severe non-security bugs addressed until Dec 31, 2015.
  - ▶ – Moderate security bugs addressed until Feb 29, 2016.
  - ▶ – Important security bugs addressed until May 31, 2016.
  - ▶ – Critical security bugs addressed until July 31, 2016 (full EOL).
- ▶ **2016年7月31日**を以ってサポート完全終了  
(2015年5月5日付けのアナウンスによる)



## IdP ver.3系統へのアップグレード

---

- ▶ 現在 Shibboleth IdP 2.x系統をご利用の機関は、ver.3系統へのアップグレードを行う必要があります。
- ▶ アプライアンス製品を利用して学認に参加している機関も、製品がShibboleth IdP ver.2.x系統をベースにしている場合、ご対応いただく必要があると考えられます。
  - ▶ 大学等の教職員を対象に実施している「情報処理技術セミナー(活用編)」で、Shibboleth IdP 2.x系統からのアップグレード手順を実習する予定です。  
<https://www.nii.ac.jp/hrd/ja/joho-karuizawa/index.html>
  - ▶ 企業の方でも受講できるセミナーの実施も検討しています。決まり次第、学認情報交換メーリングリスト、および、学認ウェブサイトにてご案内いたします。  
<https://www.gakunin.jp/>



## IdPアンケート調査のお願い

---

- ▶ IdPアップグレード時に、学認事務局から適切な情報提供を行うため、学認に参加しているIdP設置機関を対象に、アンケート調査を行います。
  - ▶ すべてのIdPを対象に、ご利用中のShibboleth動作環境をお伺いします。
  - ▶ プラグイン等の利用状況についてもお伺いする予定です。
  - ▶ アプライアンス製品をご利用の場合、製品名等をお伺いします。
  - ▶ アプライアンス製品のベンダー様にも、Shibbolethの利用状況について、情報提供をお願いします。
- ▶ 詳細につきましては、近日中にご連絡いたします。  
ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。



One more thing!



# 発表！ IdP of the Year 2014

2015.6.11 学術情報基盤オープンフォーラム2015  
学術認証運営委員会



## IdP of the Year

---

- ▶ 2012 / 2013は，学認アンケートの結果をもとに，もっとも模範となるIdPを表彰
- ▶ 2014は，学認アンケートの結果に限らず，IdPに関して，最も顕著な活動が見られた機関を表彰
- ▶ 学術認証運営委員会において審議した結果は・・・



**GakuNin IdP of the Year 2014**

**金沢大学**



## IdP of the Year 2014 金沢大学

---

- ▶ 2014年度の学認と関係したイベントで、顕著な活躍
  - ▶ ・Malaysia UPM Federation Workshop(4/29)  
Multifactor Authentication with Tigr and SAML
  - ▶ ・TNC2014(5/20)  
Safe and secure authentication mechanism in consideration of the convenience of users
  - ▶ ・学認春キャンプ2014(5/29)  
Shibboleth用多要素認証導入のための技術ガイド
  - ▶ ・AXIES企画セッション(12/10)  
IDパスワードの限界に備える多要素認証の最新動向
  - ▶ ・統合認証シンポジウム(1/23)  
金沢大学統合認証基盤(KU-SSO)更新に向けた取り組み